

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	3972500577
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム ひのきの里
訪問調査日	平成20年6月26日
評価確定日	平成20年8月27日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3972500577
法人名	社会福祉法人 香南会
事業所名	グループホーム ひのきの里
所在地 (電話番号)	高知県高岡郡津野町黒川字小畑740-6 (電話)0889-40-2370

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年8月27日

## 【情報提供票より】(平成20年5月30日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤7(内兼務2)人、非常勤 8人、常勤換算 11 人	

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	<del>新築</del> 改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

## (4)利用者の概要( 5月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 71 歳	最高 95 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	杉の川診療所 野中歯科 訪問看護ステーションちひろ	2
---------	---------------------------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部に位置する事業所は、目前に人家はあるが、小鳥のさえずりが聞こえ、清流が流れ、居心地の良い、広々とした、のんびりできる住環境の中にある。この住環境の中で、利用者は、自然体で、お互いに支えあいながら、さわやかに生活しており、利用者職員が、日々の生活を共に造り上げていることがわかる事業所となっている。これは、利用者職員との程よい人間関係と、管理者のポジティブな高齢者感や福祉感、頑張りに支えられた賜物であろう。利用者は地域出身の方が多く、利用者一人ひとりが地域の中に溶け込み、地域住民の一員として暮らしを継続しており、利用者を主人公とした地域密着型サービスを提供している事業所である。管理者はじめ職員の頑張り进行评估したい。
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の主な改善課題は、「苦情対応」「災害対策時の備蓄がされていない」等であったが、評価日の翌日から職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。災害時の備蓄については、近日中に母体法人から配布の予定となっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や目的を管理者から職員に周知し、全員で取り組んでいる。評価結果(詳細)の内容についても、全項目を職員が検討し、管理者が記載している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、2カ月間の利用者の暮らしぶり、活動内容、事業計画等を報告している。以前は運営推進会議のメンバーからの意見やアドバイスが少なく、地域の行事等の案内にとどまっていたが、次第に双方向的な会議になってきている。外部評価については改善結果を報告していない。改善に向けた取り組みを報告することで、事業所のありようを地域に発信することにもなる。今後運営推進会議において報告することを期待したい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は3カ月に1回開催し、10名程度の家族が参加している。苦情は特に出していないが、家族会等で出された意見等は職員会で検討し、日々のサービスに反映させると共に、家族にも報告している。家族との信頼関係は構築できており、なんでも言える関係ができあがっている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 住民の繋がりが残っている地域特性を生かし、利用者一人ひとりが地域の一員として、地域に根差し、地域からも認知されている。管理者はじめ職員全員が、地域に向けて情報発信をしており、また、年1回の地域の座談会への参加、社会福祉協議会が行う地域の支えあいへの入会、地域の幼稚園、小、中学校生との交流、地域が行うカラオケや陶芸教室等への参加など、地域に根差した事業所となっている。夜間の防火訓練でも近隣住民の協力が得られるなど、良好な関係が出来上がっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。  地域密着型になった時点で職員全員で話し合い、ホーム独自の理念を掲げている。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。  職員全員で話し合い、住み慣れた地域で、利用者と地域住民が共に支えあい、暮らし続けることを目指した、地域密着型の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会を持ち、意識づけがされている。  スタッフ会や、カンファレンスで理念について話し合い、確認している。  <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。  共に支えあい、いつも笑顔で穏やかに過ごすことができることをモットーに、日々のサービスの中で、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に加入している。  町会がほとんど活動していないため町会には加入していないが、年1回の地域の座談会に出席し、社会福祉協議会の地域の支えあいに入会し、また、管理者はじめ職員全員が、地域に向けて情報発信も行い、地域住民の一員として、地域に根ざした事業所として地域から認知されるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。  幼稚園、小学校、中学校との交流、地域のカラオケ大会、陶芸教室への参加、また、学校の行事時に売店を出して欲しいとの要請があるなど、事業所が積極的に地域の中に溶けこみ、地域の中の一員となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。</p> <p>外部評価の意義や目的を管理者から職員に周知し、全員で取り組んでいる。評価結果(詳細)の内容についても、全項目を職員が検討し、管理者が記載している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。</p> <p>前回評価の改善課題は、評価日の翌日から職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。災害時の備蓄については、改善には至っていなかったが、近日中に母体法人から配布の予定となっている。</p>		
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。</p> <p>運営推進会議では、2カ月間の利用者の暮らしぶり、活動内容、事業計画等を報告している。以前は運営推進会議のメンバーからの意見やアドバイスが少なく、地域の行事等の案内等にとどまっていたが、次第に双方向的な会議になってきている。</p> <p><input type="checkbox"/>評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>外部評価の結果や改善課題については報告しているが、取り組み経過や改善結果を報告していない。</p>	○	<p>改善に向けた取り組みを報告することで、事業所の姿を地域に発信することにもなる。今後運営推進会議において報告することを期待したい。</p>
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>サラバンド体操、入居者の相談、年5回の行政とのケア会議等、積極的に連携を図っている。山間部という住民の繋がりが残っている地域特性を生かし、地域住民との交流も活発で、老人クラブやボランティアの人達の出入りも盛んである。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族の来訪時や家族会に参加した時に、積極的に話し合いをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 「ひのきの里だより」を年4～5回発行し、写真を同封して家族に送付している。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 預金通帳に直接出金内容を記載し、2名の職員がチェックしている。母体法人の担当者も月1回、預金通帳と領収書をチェックし、家族には、預金通帳のコピーと領収書を送付してサインをもらっている。		
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会は、3カ月に1回開催し、10名程度の家族が参加している。管理者を中心に、利用者と職員の人間関係が良くとれており、家族との信頼関係も構築できており、なんでも言える関係ができあがっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 苦情は特に出ていないが、家族会等で出された意見等は職員会で検討し、日々のサービスに反映させると共に、家族にも報告している。		
9	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 職員の異動等が少なく、職員も大半が地域の人たちであり、利用者や職員と顔なじみで、安心して暮らすことができる生活環境が整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 異動時には1週間程度の引き継ぎ期間を取り、利用者にはダメージがないように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。</p> <p>管理者が研修計画を周知し、雇用形態の如何に関わらず希望すれば参加ができる仕組みができています。職員数の問題などで、事業所からの参加者は限られるが、個人で積極的に参加している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。</p> <p>研修後は職員会等で伝達講習を行い、職員間で共有できるようにしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。</p> <p>本部法人が加入し、法人内の事業所が当番制を取り、会議に出席している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。</p> <p>法人内の事業所はもちろん他法人との交流も行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。</p> <p>入居希望者の家族等に生活歴等を記載してもらい、入居希望者の生活背景が把握できるよう努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。</p> <p><input type="checkbox"/>入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p> <p>入居希望者には、管理者1名のみで面接を行っている。</p>	○	<p>入居希望者の面接は、管理者のみでなく、複数の職員で行い、多角的に情報を収集することが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 自然発生的にできた役割を大切に、できることには手を出さずそつと見守り、出来にくいことはさりげなく支援し、利用者職員が互いに協力し合いながら、日々の生活を送っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 利用者一人ひとりが、それぞれに心を寄せ合い、利用者職員も自然体で、共に地域に住んでいるという一体感を持ち、日々の生活を共に育てている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 職員が支援するだけでなく、干し大根の葉の結び方、さらし柿のさらし方、いたどりの漬け方など、生活の技を教えてもらう場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 日頃の会話や家族の情報を基に把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 本人や家族の思いは来訪時や電話で聞き、プランに反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 モニタリングは、利用者本人に面談し、カンファレンスは、職員全員が参加して行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 短期3カ月、長期6カ月で設定している。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 変化があった時やプランが現状と合わなくなった時は個別に見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 協力病院との連携ができており、利用者は安心して生活が継続できる体制にある。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 今までに事例はないが、利用者や家族に説明し、訪問看護ステーションや協力病院とも連携を図りケアを提供できる体制にある。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 お墓参りや、結婚式に参列したり、外泊も自由にできる体制ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 入居前のかかりつけ医を受診している利用者もあり、受診の自由は保障されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 基本的に、協力病院は職員、かかりつけ医は家族が対応しているが、家族が同行できない場合は職員が対応するなど、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 受診結果は連絡帳に記載し、家族が対応した場合も、家族から結果を聞き、連絡帳に記載して、職員間で情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 「重度化した場合における対応指針」を定め、家族、協力病院、訪問看護ステーション、管理者が対応について話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 重度化の事例はないが、協力病院との連携が良くとれており、夜間でも急変時には往診してくれるなど、利用者は安心して暮らし続けることができる体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないよう、目立たずにさりげない言葉かけや対応に配慮している。 排泄介助の際に側で声掛けをするなど、気配りをして、さりげなく接している。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 喫茶店等で利用者の話をしないなど、プライバシーの確保には十分気をつけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日にしたい事(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 利用者の希望や要望に沿い、強制することなく、見守、寄り添うことをモットーに、支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 献立づくりにも地産地消を心掛け、四季折々の食材を使用し、利用者の嗜好を取り入れ、準備から後片づけまで、できることをやってもらって進めている。 <input type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 本部法人の方針で、基本的に職員1名と一緒に食事をしているが、事業所独自の献立の際には、他の職員も同じものを一緒に食べている。	○	準備から後片づけまで利用者と一緒に進めているのに、食事を共にする職員は1名であるので、できれば、他の職員も利用者と同じものを一緒に食べることを検討することが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 入浴の希望日と時間を把握し、夜間以外は毎日入浴できるよう、人員配置をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 入浴を拒否する利用者には無理強いせず、時間をずらして声かけをするなど、工夫しながら入浴支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者の習慣や日課が、自然発生的にホームでのそれぞれの役割になっていることに着目し、その習慣や日課を把握し、大切にしている支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 食事作りや洗濯、掃除など、利用者一人ひとりの得意分野やその有する能力を踏まえ、意識的に利用者アプローチをし、それぞれの利用者の出番をさりげなく作り、支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 日々の暮らしの中でできること、また、過去の情報、習慣、希望等を勘案し、何がその利用者の役割や楽しみごとになり得るかを把握し、働きかけをしている。年1回ではあるが、自分の食器を自分で造るなど、普段あまり体験しない試みもしている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 事業所全体の開放的な雰囲気や職員間との程よい人間関係等が関係しているのか、事業所内でのんびりすることを希望する利用者が多い。ただ、地元のスーパー等にはよく出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 のんびり散歩のできる環境にあり、近隣への散歩は日常化している。花見や紅葉狩りの頃には、家族会に合わせて本部法人の大型バスで、家族と一緒にドライブにも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 利用者間で、共に支えあい肩を寄せ合って暮らしているホームであり、一人で外出する利用者は少ないが、外出傾向のある利用者は把握しており、職員がさりげなく寄り添って対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 幼稚園、駐在所、近隣の住民の人たちには日頃から挨拶をするなど、顔馴染みになっており、近隣住民から連絡もある。開設4年を経過したこともあり、地域の中に自然体で溶け込んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 防火・防災訓練は、消防署及び近隣の住民の協力を得て、年2回定期的に行っている。その内1度は夜間訓練を実施している。 <input type="checkbox"/> 難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 非常用食料は、本部法人が他の事業所と共同購入し、近日中に配布を受けることになっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 管理栄養士による献立で、栄養摂取量、水分摂取量は毎日チェックしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 食材は地元の商店や良心市等で購入して地産地消に努め、献立には四季折々の食材を使用し、利用者の嗜好も取り入れながら、本部法人の管理栄養士により、栄養バランスにも配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 決して広い共用空間ではないが、利用者がお互いに息遣いを感じられる、適度な広さをもった空間となっている。また、広い前庭にもくつろぎを感じる。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気や壊していない。 大人の雰囲気が感じられる生活空間となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激に配慮している。 プランターに紫陽花の花、畑には季節の野菜が植えられ、事業所の周囲も自然がいっぱいで、くつろげる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 居室は清潔で生活感があり、個性的で温かみのあるものとなっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		